

羅臼町・朝倉商店のサケ節使用 サークルKサンクスで 「鮭節おにぎり」発売

来月から 知名度アップに期待

羅臼町のりとも朝倉商店(朝倉奉文社長)が製造するサケ節を使用した「鮭節おにぎり」をコンビニ大手のサー

クルKサンクス(本社・愛知県)が道内191店舗で4月3日から発売する。販売期間は4週間の予定。昨年12月か



サークルKサンクスに原料供給するのりとも朝倉商店の朝倉社長

ら発売した弁当「鮭巻セット」に続くサケ節商品第二弾で、関係者は「サケ節のさらなる知名度アップにつながれば」と期待を込めている。

商品開発には、定山溪章月ランドホテルの藤井修一料理長が考案した「鮭節ロール巻」がヒントとなっており、量産向けに独自の改良を加え商品化につなげた。商品は、サケの身を混ぜ込んだおにぎりの表面に黄金に輝くサケ節が全体にまぶされた。サケ節を道産食材として定着させた朝倉社長の思いが形となった商品だ。



黄金に輝くサケ節が全体にまぶされた「鮭節おにぎり」

朝倉商店は2007年、ころから羅臼で利用されないブナサケの有効活用方法を模索。大手水産加工メーカーにんべん(東京都)と北海道総合研究機構食品加工センター(江別市)から技術協力を受け製法を確立させ、10年から本格的に生産を開始した。現在は道内の量販店やホテルなどの業

(前田大介)

地や郊外を含めて検討中だ。さらに根室の魅力発信や受け入れ窓口、移住者が関心を持つメニューづくり、さらに市民の「ホスピタリティ」もてなしの心」などが必要になる。これらを推進するために官民で組織する協議会も発足させる。すでに準備会を立ち上げており、組織の在り方を協議しながら5月中にも正式な発足にこぎ着けたい考え



「鎮魂と希望の鐘」を鳴らす笹田田中会長(左)

岩手県山田町に寄贈 中標津で
中標津町開陽台の「幸せの鐘」を30周年記念事業で設置した国際的な奉仕団体、中標津ロータリークラブ(田中憲司会長)の会員15人ほどがこの作業に立ち会い、被災地の復興を祈った。
山田町に開陽台と同形の「鎮魂と希望の鐘」を寄贈す